

喜界町図書館

3月号

図書館だより

〒891-6201喜界町大字赤連小字樋口前30番地



【通算 第225号】

2015(平成27)年3月21日発行

TEL:0997-65-0962

FAX:0997-65-2523

e-mail:kikailib@town.kikai.lg.jp

1月は行ってしまう、2月は逃げてしまう、3月は去ってしまう・・・
とよく言われますが新年を迎えたばかりだと思ったら、早くも3月に入り、今年度最後の月を迎えました。3月は何かと忙しく体調をくずしやすい時期です。そんな時は、心にゆとりをもちたいですね。ゆったりと、本を読んでみてはいかがでしょうか。

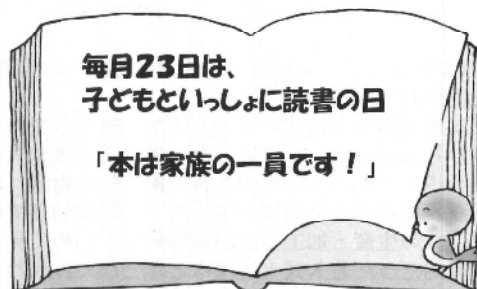
いつも、図書館を利用いただき、ありがとうございました。
これからも、よろしくお願い致します。

図書館だよりは、4月号より1日発行となります。



毎月23日は、
子どもといっしょに読書の日

「本は家族の一員です！」



貸出カードを作いませんか(無料)!

0歳児から発行できます。

○ 図書・紙芝居など 10冊

☆ 貸出期間は15日間です。



喜界高等学校 美術展

4月28日(火)～5月29日(金)

場所: 図書館1階にて

第65回鹿児島県高等学校美術展で
大賞を受賞した竹内夢希さんの洋画
「人生×僕＝」をはじめ、喜界高校の
美術部員の作品を多数展示いたします。



図書館にお越しいただき、未来の画伯の絵画を
ぜひ、ご鑑賞ください。

募集中!

読み聞かせボランティアを
募集しています。



☆ 読み聞かせに興味のある方
図書館で随時受付



おはなし会・ミニ映画

毎週土曜日 午後2時～2時40分

2月統計

(開館日数19日)

・貸出し冊数 H26年度合計
5,069冊 43,256冊
・来館者数 H26年度合計
1,077名 16,435名

《喜界島の歴史・伝承・伝説を探る》 ～ 3月号 ～

喜界島の謎・幻の時代（古代より中世の時代）

半田遺跡では白磁よりも龍泉窯系青磁が多く出土していることから12～14世紀前後と考えられる。各々の遺跡においては遺構の切り合い関係などもあり、当然ながら微妙な時期差をふくんでいるが、全体の成り行きとしてはほぼ同時期に、相互に関連性を持ちながら展開した一連の遺跡群として評価されている。

各遺跡の内容については、現在明らかになっている様相からは、日本本土産の遺物や大陸系の遺物が占める割合が非常に高く、これらの物資の集積地としての評価は揺るぎないものとみられる。更に、想像をたくましくすれば、城久遺跡群には須恵器や土師器を含め、これらの非在地系の物資を集積しうる集団が居住し、維持・管理を行っていたと推測され、池畑耕一（1998）や池田榮文（2005）らによって指摘されてきた喜界島の特殊性を具体的に示す資料となりうる。

「喜界島の宝 再発見」～貴重な古代・中世遺跡活用法を探る～という見出しの朝日新聞（2015H27.1.28水）には次のように記されている。

「琉球列島で未確認のものが出土。歴史が変わるかも、とびっくりした」1月11日の町主催のシンポジウム「古代・中世喜界島からの招待状」で講演した池田榮文・琉球大学教授（考古学）は、この遺跡群で驚くべき点を3点挙げた。一つは、地中に埋め込んだ柱の上に屋根を葺く掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもの）の大量出土だ。建てるには木組みの技術や資材・人材を集める社会組織が不可欠で、琉球列島で例のない規模だった。二つ目は、炉の跡や轆（ふいご）の羽口、鉄くずなど、鉄の生産・加工の跡が琉球列島で初めて見つかったこと。三つ目は、出土品の特異性だ。平安時代ごろ、奄美諸島で一般的だった兼久式土器はほとんどなく、代わりに出たのが、越州窯系と呼ばれる中国産青磁。九州全域をまとめ治めた行政機関・大宰府（福岡）など役所周辺で見られる遺物だ。「喜界に大宰府の出先機関があったのでは」との説が出るきっかけとなった。シンポジウムでは、ラ・サール学園の永山修一教諭がこの説を解説している。史書「日本紀略」では998年、大宰府管内に乱入した南蛮を追討するよう「キカイガシマ」に指図した、とある。大宰府の命令を受ける出先機関が官僚的な人物がいた島があるとすれば、城久遺跡群の調査を踏まえ「喜界島の可能性が高い」というのが教諭の見方だ。この説には、役所跡なら出てほしい筆記用具や墨書土器がまだ出ていないという弱点もある。それでも池田教授は、この遺跡が本土をはじめ島外との密接な関係で築かれたのは明らかだとした上で、「日本やアジアの歴史を考える上でとても重要な遺跡だ」と話している。

引用文献：喜界島城久遺跡群の発掘調査 澄田直敏 野崎拓司
古代中世の境界領域 キカイガシマの世界 池田榮文 編
沖縄大百科事典 広辞苑
2015（H. 27）1. 28（水）朝日新聞（南北600キロ）

《おとなの本》

☆『賢者の愛』山田 詠美著 中央公論社
初恋の人を奪った親友の息子に「痴人の愛」から「直己」と名付けた真由子。22歳年下の直己を手塩に掛けて“調教”し。憧れ、嫉妬、そして復讐。絢爛豪華な愛憎劇。

☆『雪炎』馳 星周著 集英社
3基の原発が立地し、原発マネーに依存する北海道・道南市。元公安警察官の和泉は、「廃炉」を訴えて市長選挙に立候補した旧友のスタッフになるが…。

☆『小旋風の夢紋』小島 環著 講談社
春秋後期の衛国。15歳の少年・小旋風は、数百年前の少女の亡骸を発見する。彼女は伝説の楽器と思われる。華麗な琴とともにあった。

☆『オオネスティ』石田 衣良著 集英社
一口入れ屋のおんなー

☆『千春の婚礼』平岩 弓枝著 文藝春秋

☆『影踏み鬼』葉室 麟著 文藝春秋

— 新撰組篠原泰之の進日録 —

《子どもの本》

☆『ルルとララのフレンチトースト』あんびるやすこ作 岩崎書店

嵐が吹き荒れ、「木のほりひろば」の木が倒れてしまいました。がっかりする動物たちを、ルルとララはお菓子で元気づけようと考えますが…。

☆『おーばあちゃんはきらきら』たかどのほうこ作 福音館書店

チイちゃんは、ひいおばあさんの〈おーばあちゃん〉のお話をきくのが大好き。だって、おーばあちゃんのお話は、どれもちょっとふしぎで、なんだかきらきらしている気がするんです。今日は、どんなお話してくれるかな…？

☆『はるのおとがきこえるよ』ジョン・シェリー絵 ブロンズ新社

冬の終わりのある夜。不思議な音を聞いたばかりが外に出てみると、庭にくまくんがいた。ほくは、くまくと、不思議な音がするほうへいくことに…。

☆『こうじょうたんけん』藤原徹司著 WAVE出版

☆『カエサルくんと木のおはなし』せきぐちよしみ絵